

設問1 次の設問で内容の正しいものには○を、間違っているものには×をつけなさい。

○×記入欄

- 例題 全日本宗教用具協同組合が定める仏壇の日は毎月27日である。
- 問1 祇園精舎は釈尊ねはんの涅槃の地である。
- 問2 『法華経』や『無量寿経』は、釈尊在世の時に成立した。
- 問3 龍樹は浄土真宗の七高僧の第一祖でもある。
- 問4 応燈関おうとうかんの法統とは曹洞宗の法統のことである。
- 問5 火舎香炉は密教法具のひとつでもある。
- 問6 法然は極楽往生のために念仏を唱えることをすすめた。
- 問7 『正信偈』は日蓮宗の聖典である。
- 問8 本願寺は元々親鸞の廟所である。
- 問9 本門流・陣門流とは臨済宗の一派である。
- 問10 東大寺南大門は天竺様式を持つ建造物である。
- 問11 寺請制度による檀家制度が始まったのは江戸時代からである。
- 問12 江戸時代、国学者平田篤胤ひらたあつたねの弟子の本田親徳ほんだちかあつは「和魂」「荒魂」などの説を唱えた。
- 問13 三十二相八十種好さんじゅうにそうはちじゅうごうによれば仏の舌は顔を覆うほど長い。
- 問14 右の仏像は阿弥陀如来である。
- 問15 石枕・川越の名号は、蓮如の事跡である。
- 問16 平成 26 年 11 月 15 日に亡くなった方の三回忌は平成 29 年 11 月 15 日である。
- 問17 三途の川を渡るのは、七七日の間の初七日の法要が終わった後とされる。
- 問18 祥月命日とは故人が亡くなった日を毎月の命日とするものである。
- 問19 逮夜とは一般的に法要前日の夜のことである。

問14

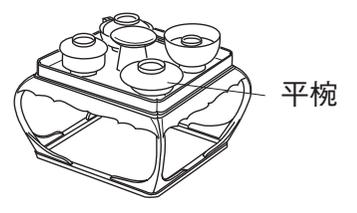
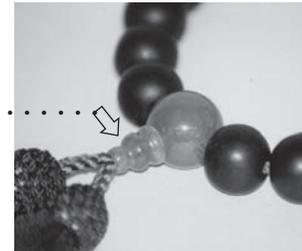
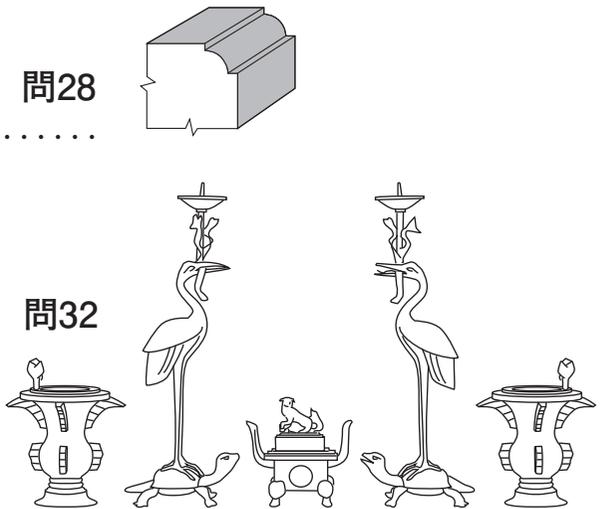


採点欄	

(前頁よりの設問の続き 設問1 次の設問で内容の正しいものには○を、間違っているものには×をつけなさい。)

○×回答欄

- 問20 仏教では「懺悔」は「さんげ」と読み、誓願と共に大切な行いである。……………○
- 問21 ^{ひば}檜葉は仏壇公正競争規約において「檜」と表示できる。……………○
- 問22 MDFとは中質繊維板（木質繊維板）のことである。……………○
- 問23 ^{どうす}胴擦り（胴摺り）は立て塗り工程において行われ、油砥の粉などによる研磨のことである。……………×
- 問24 仏壇公正競争規約で「金箔」と表示できるのは、金の含有率が90%以上の金箔である。……………×
- 問25 金箔を鏡面のような艶押しで仕上げる場合、金箔を押し面は艶消しの面にしておく。……………×
- 問26 塗り、金箔押し、組立・仕上げ工程が国内で行われた金仏壇を仏壇公正競争規約では「国産」と表示できる。……………×
- 問27 金メッキ工程では、下地メッキとして銅メッキや銀メッキ工程等を施す。……………○
- 問28 ^{ぎんなんめん・ぎんなめん}右の面取りは銀杏面と呼ばれる。……………○
- 問29 仏壇公正競争規約でチンチャンは「本紫檀」の表示が可能である。……………×
- 問30 仏壇公正競争規約の表示で「厚板貼り」とは木材の無垢板（7^ミ以上の厚さ）を芯材に貼ったものである。……………×
- 問31 ウォールナットはクルミ科の樹木である。……………○
- 問32 鶴亀の燭台を五具足で用いる時、右図のように口を開けている鶴亀は向かって右側にする。……………○
- 問33 浄土真宗本願寺派の仏壇では茶湯器を用いる。……………×
- 問34 霊供膳の平椀には煮物を盛る。……………○
- 問35 日蓮宗では戒名を法名・法号とも呼ぶ。……………○
- 問36 珠数の親珠の下にある部位は「ぼさ」と呼ぶ。……………○

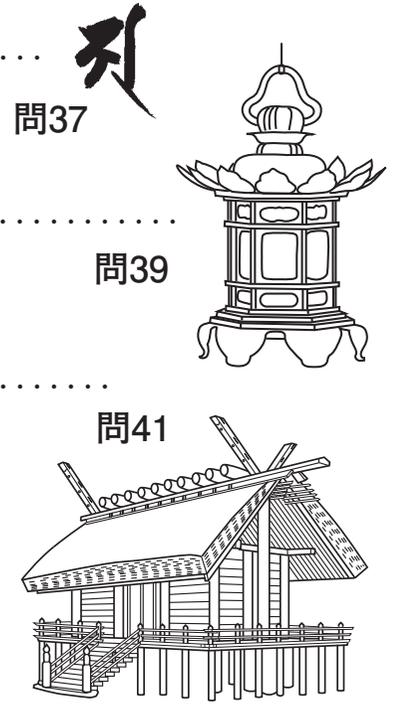


採点欄

--	--

(前頁より設問の続き 設問1 次の設問で内容の正しいものには○を、間違っているものには×をつけなさい。)

- ×回答欄
- 問37 右の梵字は阿弥陀如来である。……………
- 問38 銅を主体とした錫・鉛の合金が「佐波理」であり、錫分を多くすることで音響性を高める。……………
- 問39 真宗大谷派では仏壇内で猫足の金燈籠を用いる。……………
- 問40 渦巻き線香は中陰用として用いられる。……………
- 問41 右に見える神殿の造りは大社造りである。……………
- 問42 仏壇公正競争規約では「店頭等における必要表示事項」で原産国表示が必要である。……………
- 問43 既に撤廃されたメーカー希望小売価格を比較対象価格に用いての二重価格表示は問題ない。……………



設問2 次の設問の語句で正しいものには○を、間違っているものには×を下の回答欄に書いてください。

例題 真言宗の宗祖は《道元》である。

天台宗の教えは《問1 華嚴經》を最高の教えとするもので、隋の時代の《問2 智顛》によって確立されました。

最澄は《問3 奈良時代》に入唐し天台宗を日本に伝えましたが、最澄以後、天台宗の教えは弟子達によって深まりをみせます。

その弟子の一人であり第三代天台座主となった円仁が入唐中に記した《問4 入唐求法巡礼行記》は、マルコポーロの『東方見聞録』に

比される紀行文です。第五代天台座主である円珍は《問5 比叡山延暦寺》を本山とする天台寺門宗の開祖です。

平安時代の中期には比叡山恵心院の《問6 源信》は『往生要集』を著しました。

禪の教えを日本に伝えた栄西は比叡山で天台宗の密教である《問7 台密》も学びました。

- 設問2 ○×回答欄
- | | | | | | | |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 問7 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

採点欄

--	--